

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

## 事業名 円空大賞開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 文化創造課 文化創造係 電話番号：058-272-1111(内 2467)

E-mail：[c11146@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11146@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 3,633 千円 (前年度予算額：5,400 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,400	0	0	0	0	0	0	0	5,400
要求額	3,633	0	0	0	0	0	0	0	3,633
決定額	3,633	0	0	0	0	0	0	0	3,633

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 平成11年度に「円空大賞」を制定し、令和2年度までに10回の受賞者選考と授賞式および展覧会を開催してきた。このことは、ふるさとの誇りとして円空の再評価と再認識を県民に広げ、円空仏の保存・継承に努める機運を醸成させるとともに、国内外に円空の慈愛の精神、類のない独自の芸術を発信することにつながった。
- 令和元年度開催の第10回円空大賞展では、受賞者がワークショップやギャラリートークの講師を務めていただく等、岐阜県の文化・芸術の振興に多大な協力を得た。

#### 【第1回～第10回までの受賞者数】

円空大賞10名、円空賞42名、知事賞3名(第1回から第3回まで)、特別賞1名(第1回のみ)

- 令和2年度は、第11回円空大賞授賞式、円空大賞展に向けた日程の見直しを図り、今回は選考期間を2年間とし、各選考委員より受賞候補者の推薦を募り書面による事前選考を行った。
- 円空の「独創性」や「慈愛」の精神を、本県の文化・芸術の個性としてとらえ、円空連合(県内の円空を有する市町による団体)との連携を図って

円空の顕彰と観光的活用、地域振興へとつなげる。

## (2) 事業内容

「円空」を彷彿させる国内外の芸術家を顕彰し、県民に優れた芸術文化に触れる機会を設けるとともに、円空の精神を県内外へ向けて発信する。

※円空：江戸時代の僧。美濃国(現在の岐阜県)生まれ。全国を行脚し、生涯に12万體もの仏像を彫ったことで知られる。

### ○第11回円空大賞授賞式

令和2～3年度に第11回円空大賞の選考を行い、受賞者を決定。

円空大賞展開場式に合わせ、授賞式を行う。

受賞者：円空大賞1名、円空賞4名

### ○第11回円空大賞展

第11回受賞者5名と円空仏の展覧会を開催する。

会期 令和5年1月末～3月上旬 予定

場所 岐阜県美術館

## (3) 県負担・補助率の考え方

県民が芸術文化に触れ、文化的な感性を高めていく機会に資するものとして、県の負担は妥当である。

## (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
報償費	900	謝金
旅費	702	費用弁償、業務旅費
需用費	31	
事務用消耗品	21	
会議費	10	選考委員会茶菓代
役務費	21	電話代 資料送付
委託料	1,909	情報収集関連 選考委員会映像操作関連 翻訳 記者資料作成関連 HP用データ調整関連
使用料	70	選考委員会会場使用料
合計	3,633	

## 決定額の考え方

# 事業評価調書

- 新規要求事業  
 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
ふるさとの偉人「円空」を通して、県民に優れた現代美術や作家とふれあう機会を提供し、「円空」の精神を県内外に向けて発信するとともに、県民文化への愛着と誇りを醸成します。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移								現在値	目標	達成率
		(H13)	(H15)	(H17)	(H18)	(H20)	(H23)	(H25)	(H27)			
円空大賞展 入場者数	0	4,587	6,013	2,600	2,137	2,911	4,204	4,256	3,707	3,423	4,000	85.5%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
円空大賞新選考委員4名の決定、継続選考委員6名への就任依頼を行った。選考委員10名より円空大賞の候補者推薦をいただき、書面による事前選考を行なった。

### (前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
第11回円空大賞展授賞式、円空大賞展に向けた日程の見直しを図り、今回は選考期間を2年間としたことで、推薦・事前・1回・2回の各選考にゆとりが生まれて選考委員の負担を軽減できる。また、受賞決定から展覧会までの準備期間が受賞作家に保証され、作品制作にゆとりが生まれる。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い     △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	円空の精神を広め、県民に優れた芸術作品を鑑賞する機会を提供できた。作家によるワークショップやギャラリートークを開催することで、県民の文化に対する意識の向上や振興に寄与した。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) ○	第10回円空大賞展は会期34日間で有料入場者数1,803人を記録し、過去最大数あった。作家招聘による関連イベントを開催し、作家と直接ふれ合い、優れた現代芸術を味わうことができた。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている     △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	受賞作家を招聘しギャラリートークやワークショップ等の関連イベントを開催し、県民と直接ふれ合える機会を増やして、より県民に親しまれる円空大賞展へと見直しを行っている。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 受賞作家の作品を生かした効果的な展示計画や県民とのふれあいを創出する関連イベントの企画をする。</li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 円空の精神に根ざした本県独自の特色ある事業として、継続する意味があり、県関係機関、円空ゆかりの市町と連携し、県民に親しまれ、県内外での認知度がより高い円空大賞展をめざす。</li> </ul>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	